

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
Ver.12	動作環境	機能改善	必要となる .NET Framework の条件を .NET Framework 4.5.2 に変更しました。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 共通	-	Windows10の環境において、.NET Framework の追加インストールは必要なくなりました。
	瞬間復元ドライバ	機能改善	BitLockerドライブ暗号化やデバイスの暗号化により、ディスクが暗号化されたPCにて瞬間復元機能が動作するようになりました。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 共通	-	
	システムリカバリ	機能追加	動作モードが修復無効モードの状態では瞬快クライアントがインストールされたディスクイメージを配信する際に、修復モードに変更して終了させる機能を追加しました。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 上、特上	-	
	利用情報収集機能	機能追加	利用情報収集機能で収集されたデータをCSV形式でエクスポートするツール(UseInfoExport.exe)を作成しました。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 共通	-	
	瞬間復元ドライバ	瞬間復元の方式に、機能制限方式を選択した場合でも、各PCのUEFIの仕様の違いより、瞬間復元機能が正常に動作しない場合がある。	瞬間復元の方式に、機能制限方式を選択した場合、瞬間復元用のブートローダーを登録しない動作に変更しました。これにより、各PCのUEFIの仕様の違いによる影響を受けなくなります。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	瞬快クライアントの動作モードを修復モードにすると、OS起動時にSDBUS.SYSの異常によるSTOPエラーが発生する場合があります。	瞬間復元ドライバインストール時および修復モードへの変更時に次のレジストリ設定を行うことで異常の発生を回避するようにしました。 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\sdstor\Parameters] "PackedCommandEnable"=dword:00000000	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 共通	問題が発生する場合は、左記のレジストリを手動で設定してください。	
	クライアント	デバイスの暗号化を有効にできる機種の場合、Windows10の標準設定ではアイドル時に自動的に暗号化が開始される。	瞬間復元ドライバインストール時および修復モードへの変更時に次のレジストリ設定を行うことで自動開始を抑制するようにしました。 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\BitLocker] "PreventDeviceEncryption"=dword:00000001	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	修復モードの場合でも、Microsoft Office 2019 の自動アップデート用のタスクが無駄に動作していた。	次の Microsoft Office 2019 のアップデート用のタスクを、瞬間復元ドライバインストール時に無効化するようにしました。 ¥Microsoft¥Office¥Office Automatic Updates 2.0	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	
	ウイルス対策ソフト連携	WindowsDefenderのドライブファイルの置き場所が、KB4052623の更新プログラムによって次の通り変更された。 【更新プログラム適用前】 %Windir%\System32\drivers 【更新プログラム適用後】 %Windir%\System32\drivers\wd	修復対象外設定として新たにパスを追加しました。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリクライアントインストーラ	デバイスの暗号化を有効にできる機種の場合、Windows10の標準設定ではアイドル時に自動的に暗号化が開始される。	システムリカバリクライアント機能をインストール時に次のレジストリ設定を行うことで自動開始を抑制するようにしました。 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\BitLocker] "PreventDeviceEncryption"=dword:00000001	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリサーバインストーラ	システムリカバリサーバ機能は、版数アップ時に必ずアンインストールしてから新しい版数をインストールしなければならない。	システムリカバリサーバ機能の内部エンジンに変更が無い場合は、アンインストールせずに版数アップが可能となるように修正しました。 システムリカバリサーバ機能の版数アップ時は、新しいシステムリカバリサーバインストーラを実行すると、版数アップ可能な場合は処理が継続され、版数アップ不可能な場合は、警告メッセージを表示し処理を中断します。処理が中断された場合は、システムリカバリサーバ機能のアンインストールを行うことからインストールを行ってください。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	ブートエントリにWindows Boot Managerが2つ存在する。異常なPCのディスクイメージを取得して配信すると、瞬快クライアント機能のインストールが正しく行われない。	Windows Boot Manager が2つ存在する場合は、ブートエントリ異常としてディスクイメージ取得が動作しないように修正しました。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	システムリカバリ機能の環境設定Wizardを使って、ディスクイメージのリソース保存場所変更を実施する際、データフォルダの新しい場所は指定できるが、ディスクイメージのデータは、あとから手動でコピーする必要がある。	新しいデータフォルダを指定した際に、イメージデータと関連するファイルも自動で移動されるように修正しました。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 上、特上	なし	
	システムリカバリ	ディスクイメージ取得したディスク内に含まれる、システムリカバリクライアント機能が利用する管理ファイルが、暗号化されていたり、圧縮されていたりすると、ディスクイメージ配信の時にエラーとなってしまう。 このため、暗号化や圧縮を解除して、再度ディスクイメージ取得をやり直す必要がある。	ディスクイメージ取得の時に、管理ファイルが暗号化されていたり圧縮されていたりする場合は、エラーメッセージを表示し、ディスクイメージ取得ができないように、プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 上、特上	なし	
	リモート画面操作機能	キーマウスロック機能にて、タッチパネルの操作はロックできない。	タッチパネルの操作もロックできるようにプログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	複数PC操作機能のパネル表示にて、クライアントPC側のディスプレイのアスペクト比と、コンソール側の表示のアスペクト比が一致せず、表示領域が非効率になる。	アスペクト比のデフォルト値を16:9にしました。 また、カスタムでアスペクト比を指定できるようにしました。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	複数PC操作のレイアウト表示画面にて、背景に画像を設定していた場合、レイアウト表示画面をマウスのホイールでスクロールさせると、背景の画像が崩れる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 共通	スクロールバーでスクロールを行ってください。	
Ver.12a	Windows OS	サポートOS追加	サポートOSとして「Windows 10 Pro for Workstations」を追加しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	-	
	ドライバ	ファイルフォルダ単位の修復モードで運用している場合に、skfsd.sysにて0x50のSTOPエラーが発生する場合があります。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12以前 【グレード】 共通	なし	

製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	ドライバ	2020年上期モデルの富士通製PCにて、標準設定の「A方式」にて修復モードにしようとすると失敗する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	復元方式を、「機能制限方式」にすることで回避可能です。	
	ドライバ	起動ディスクの先頭パーティションの開始オフセットが32,255Byteより小さいPCにて、動作モードを修復モードに切り替えようとすると、モード切り替えが失敗し、場合によってはWindowsが起動できなくなることがある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	ドライバ	ファイルフォルダの修復モードで運用中、修復対象領域にて新規作成もしくは更新したファイルに、読み取り属性を付け、他のドライブへ移動しようとすると、処理に失敗しファイルが消失する。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	移動せずにコピーし、コピー後にコピー元を削除してください。	更新ファイルの場合、更新前のファイルは残ります。
	ドライバ	ファイルフォルダ単位の修復モードにすると、フォルダが0バイトのファイルに見える事象が発生する場合があります。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	Avid社の音楽ソフトインストール環境にて発生することを確認しています。
	ドライバ	Windows 10 May 2020 Update (Version 2004)の環境において、メモリキャッシュ機能を有効にして修復モードにすると、システムイベントログに次のエラーが記録される。 ボリューム ボリューム (¥Device¥SKRamDisk) フル Chkdsk を実行するために、オフラインにする必要があります。コマンドラインで "CHKDSK /F" をローカルに実行するか、PowerShell で "REPAIR-VOLUME <ドライブ:>" をローカルまたはリモートで実行してください。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	ドライバ	修復モードではAutodesk社の2020年版ネットワークライセンス製品を起動できなくなる。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	管理機能	管理コンソールに登録されている機器の「OS情報」にて、無線LANのネットワーク設定を「ネットワーク情報を更新する」に設定しても無線LANの「DNS」情報が更新されない。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	管理機能	管理コンソールのスケジュール登録画面にて、アプリケーションエラーが発生する場合があります。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	WindowsUpdate連携	WindowsUpdate連携の処理において、適用に1時間以上かかるような更新があった場合、クライアントPCが再起動を繰り返す状態になってしまう場合があります。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	WindowsUpdate連携	WindowsUpdate連携の処理途中で、意図しないPCの再起動が行われると、WindowsUpdate連携の処理が失敗してしまう。	意図しないPCの再起動が行われても処理を継続させるようにしました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	WindowsUpdate連携	WindowsUpdate連携において、クライアント側で動作するBzWuAgent.exeがアプリケーションエラーにて終了してしまい、WindowsUpdate連携のスケジュールが失敗で終わる場合があります。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作機能	複数PC操作のグループの選択画面にてグループを選択すると、アプリケーションが異常終了する場合があります。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	
	サーバ	瞬快サーバ機能のインストール後、瞬快DBのインスタンスが起動しない状況となることがある。更に、当事象の発生時、OSが過負荷状態になることで他のプログラムを起動できない等の状況に陥ることがある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	次のコマンドにてサービスプログラム「SQL Server (NEBULA2010DB)」の依存関係を変更することで対応可能です。 sc config MSSQL\$NEBULA2010DB depend= KeyIso	
	ウイルス対策ソフト連携	エフセキュア13.11のパターン更新に失敗することがある。	プログラムを改修しました。	【レベル】 Ver.12 【グレード】 共通	なし	